



営農ウィークリーNEWS

2019年産米の品質、検査状況

今年も気象変動の激しい年で、植付後は日照不足と降雨、梅雨明け後は、急速に天候が回復しました。また、登熟期は高温で推移し、早生品種では、その影響による背・腹白粒、乳心白粒などの混入が多い状況です。カメムシ類による着色粒についても防除状況や環境にもよりますが混入が見受けられます。8月下旬は降雨、日照不足となりなしたが9月上旬から天候が安定し、晩生品種では、高品質が期待されます。(図1・2・3・4参照)



※向島地域「ヒノヒカリ」2019年9月26日撮影

10月4日現在の検査状況は、次のとおりです。

	検査数量 (トン)	等級比率(%)		
		1等	2等	3等
2019年産米	12.9	11.6	42.1	46.3
2018年産米	6.9	4.3	49.4	46.3

※2018年産米検査実績は、昨年の10月4日の同日現在実績です。



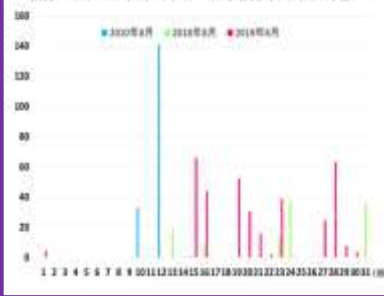
8月最高・最低気温

平成22年(2010)・平成30年(2018)・令和元年(2019)



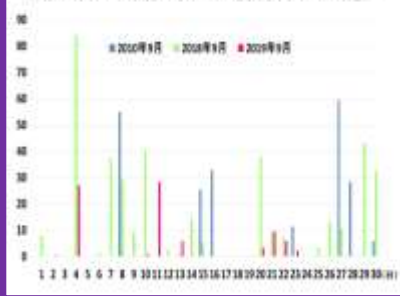
8月降水量

平成22年(2010)・平成30年(2018)・令和元年(2019) 単位:mm



9月降水量

平成22年(2010)・平成30年(2018)・令和元年(2019) 単位:mm



9月最高・最低気温

平成22年(2010)・平成30年(2018)・令和元年(2019)



TAC information

「グレーシア乳剤」



秋冬野菜防除にオススメな薬剤を紹介します。
「グレーシア乳剤」です。チョウ目やアザミウマなど幅広い害虫に卓効を示します。
効果は長期間続き、約2週間害虫の加害を防ぎます。葉内に薬剤が浸透し、葉裏の害虫もしっかり退治します。また、低温期でも安定した効果を発揮します。
ただ、非常に高い防除効果を発揮しますが、天敵類にも影響があるので、散布前には確認が必要です。
※農薬の使用前には、ラベルで登録内容を確認してください！

作成者：営農販売課 新谷雅敏

水稻害虫・トビイロウンカの脅威

今年は、「トビイロウンカ」の被害が西日本の各地域で記録的に発生しました。管内でも左京区を中心に京都市南区、伏見区、長岡京市で被害が発生しました。早生・中晩生品種から一部、晩生品種のヒノヒカリでも被害が発生。晩生品種は、これからが刈取を向かえますので、万一、発生を確認したら収穫前日数を確認しながら防除を行ってください。※管内の被害状況は、次のとおりです。



久世支店管内



羽束師支店管内



海印寺支店管内



乙訓支店管内



神足支店管内



管内で最も大きな被害を受けた左京区岩倉地域のほ場です。

※ドローンによる空撮した画像

